



極限の貧乏から今日まで

第二話「再起」編

講演：土井 広文氏

秋田在住の土井広文さん。澤上篤人さんとのご縁で知り合いになった方です。秋田に何度かお邪魔して、セミナーを開催していただきました。お子さんたちとも仲良しになりました。土井さんはすでに仲間を集めて資産運用の勉強会を定期的に行っているそうです。

今年6月に土井さんがお客様を集めてくださり何度目かの秋田での講演が実現しました。遠方も含め、とても多くの方がお出でになりました。特に驚いたのは多くの方が土井さんの話を聞き、この半年ぐらいのうちに実際に投資を始めたということです。これはとてもすごいことです。私も、あちこちで講演をして歩いていますが時に話を聞いてくださる方のうちどのぐらいの方が実際に投資を始めているのだろうと思うことが多いのです。

きっと土井さんの話には何か人に訴えるものがあるのだろうと思い詳しくお話を聞きました。なるほど、納得です。机上の空論ではない現実のどん底脱出のストーリー、これから三回連載で自ら語っていただきます。(岡本)

前回の続編、「再起」編のお話しをさせていただきます。前回、行き着くところまでとことんたどり着き何かが変わった私は「そもそもお金とはいったい何なんだ!?!」、「お金持ちとは何なんだ!?!」と静かな疑問が沸き起こったところまでをお話しさせていただきました。

そんな疑問を抱いた私は、今考えるととても恥ずかしい話なのですが、「お金とは?」とか「お金持ちとは?」、「資産家とは?」という言葉インターネットで検索しました…。もちろん必要としている答えなど出て来るはずもなく、そもそも無一文の自分が「資産家」について調べたところで他人事ではかなく、「やはり、一生貧乏なままなのかな…」と漠然と考えていたものでした。

でも、いろいろとお金に関して調べているうちに、お金に関して書かれた本がいろいろと目に付くようになりました。それらの本を読んだところで、貧乏を脱出できる気は全くしませんでした、「もしかすると…」と淡い期待を抱いて、お金に関する本を読んでみることにしました。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

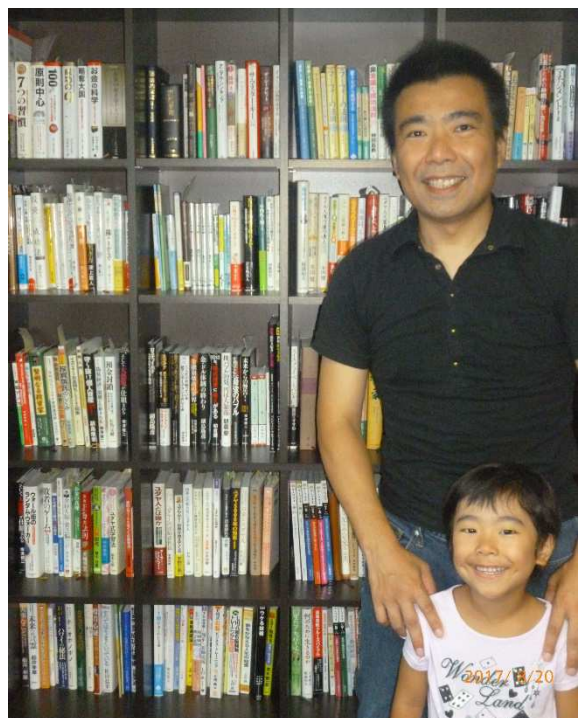
食べる物も買うのが困難だった状況なので、ほとんどの本はアマゾンで古本を買いました。最初に買った本はロバート・キヨサキ氏の「金持ち父さん貧乏父さん」という本だったと思います。本を読み慣れていない私には、字も小さく分厚く感じる本でした。内容は会社を作る話や不動産投資、株式投資について書かれているのですが、どれも当時の私には不可能と思える内容でした。会社を作る能力もなければ、不動産や株を買うお金もありませんでしたし、到底うまく行くとは思えませんでした。

ただ、「資産」と「負債」についての考えは私にはとても新鮮でした。書かれていたのは「資産とは持っているだけで自分のポケットにお金が入ってくる物のことで、負債とは持っているだけで自分のポケットからお金を持っていってしまう物」というお話でした。

当時の私は「負債」だらけで、「資産」と呼べるものは何一つありませんでした。お金持ちとは沢山のお金を持っている人のことではなく、このお金の流れを持っている人のことである事は理解できました。これはとても大きな収穫でした。そして、たとえ「資産」を持っていても「負債」を多く持っていればお金持ちの感覚にはなれないのだということも何となくですが、理解したものでした。100円前後の古本から得た、とてもとても大きな収穫を約束してくれる種だったのだと思っています。

そしてもう一つ「お金持ちになりたければ、お金について学ばなければならない」という話が私にお金について学ぶ動機付けをしてくれました。その後、お金が無いなりに古本を買ひ、まったくお金が無い時は図書館へ行ってお金に関する本を読むようになりました。そしていろいろな本を読んでいるうちに会った衝撃の一冊が「バビロンの大富豪」でした。

この本に書かれている「財産を築く不滅の原則」と「黄金の七つの知恵」という話を読んだ時に、「これは凄いことが書かれている…何とかなるかもしれない…」と興奮したのを覚えています。そして、分ったことは「自分はお金のことを知らな過ぎた…」ということ。私がお金について本気で学ぶことを決意することになった一冊でした。読んだことのない方は是非、ご一読をお勧めいたします。書かれている内容は本当でした。





長期投資仲間通信「インベストライフ」

学ぶことを決意した私は妻に「お金の本を買うから毎月、三千円をくれ」と打診しました。毎月三万円で生活しているのに、その中から「三千円をくれ」と言うのですから極限の世界です。日々、一円、十円を削って生活している我が家にはどうやってもお金はありません。

「さて…」と思った私は食費を浮かせて本代を捻出するために、近所に生えている山菜を採って食費を浮かせることにしました。そのために食べられる山菜を見分ける本(古本)を買って勉強しました。食料を確保するために、秋田市が無料で貸している市民農園を借りて野菜の種を撒いて野菜を育てたりもしました。野菜を育てるための本も買って勉強しました。夏の暑い時期には仕事の休憩時間に会社を抜け出し、ジョウロで畑に水を撒き、農作業をやりました。そして服に泥を付けながら会社に戻り、何事も無かったかのように仕事を続けました。

こうして食費を賄い何とか毎月、妻から三千円を貰うことが出来ました。私の貧乏脱出のスタートラインは資産構築からではなく、「生命を維持する」という人類の原始的なところからのスタートでした。

もし、お金について学校で教えてくれているならば、現代人の私が原始的な生活からスタートする必要はなかったと思います。スタートラインが、だいぶ後ろの方だったのだと思います。火のおこし方や石で包丁を自作するところまでスタートラインが後ろでなかったのは、この豊かな日本に住んでいたお陰かもしれません…(笑)。因みに、この時借りた市民農園はものすごく人気が高く抽選で割り当てられるもので、もし抽選に外れていれば今の私はありませんでした…。

勉強していく中で私は大切なことにも気付きました。それは自分が学ぶ内容は「子供に教えられる内容でなければならない」というものでした。困窮した状況下で、何かいかがわしい手段で一時的にお金を手にし、貧乏を脱出できたとしても、それは子供には教えられない。学んだことはキチンと子供に伝えなければならないし、子供が将来生きて行くうえで使える正しい知識でなければならないという気付きでした。まるで誰かが私に教えてくれているような感覚でした。

子供に伝えることを前提に吸収する知識を選択し続けた結果、いかがわしい儲け話に引っ掛かることもなかった私は本当にラッキーだったと思います。引っかかるお金が無かったというのがありますが…(笑)

なんとか、本代を捻出し知識を吸収していった私ですが、肝心の資産を構築するためのお金はありませんでした。そこで、我が家の「負債」を手放す作業を始めました。最初にメスを入れた「負債」は車でした。都会に住んでいれば車は無くても生活できますが、秋田では一人一台持っていないと生活が困難なため、我が家ももれなく夫婦で二台保有していました。車が持つ負債のインパクトは非常に大きく、車検、保険、税金、ガソリン、オイル交換、タイヤ、スタッドレスタイヤ、バッテリー



長期投資仲間通信「インベストライフ」

交換、ローンの利息とあまりにも多くのお金を私のポケットから持ち出します。ポケットからお金がダダ漏れするのです。これではお金が溜るわけがありません。それが二台です。

まずはそれを一台にしました。もちろん生活には困りましたが、その不便な状況に生活を合わせることにしました。それから、月に一度の散髪を自宅で妻に切ってもらうことにしました。この散髪代も実はインパクトが大きいのです。私の頭は月一の散髪に 3,600 円 掛かっていたのですが、これは年間になると 43,200 円です。もし人生 80 年間 3,600 円払っていたとすると 3,456,000 円です。これを家族 5 人分で考えると 17,280,000 円です。家が建つ金額です。これを年 5% の投資信託で運用すれば年間で 864,000 円の利回りです。かなり大雑把な計算になりますが他人に髪を切らせている場合ではありません。

お金の不安がほぼなくなった今でも自宅で髪を切っています。なので私のボサボサ頭は今でも毎月、3,600 円とその利回りを「複利」で生み出し続けています(笑)。これはやめられません。秋田弁で言うところの「こいだばいい！ やめらいね！！」です。私の頭は「負債」から富を生み出す「資産」に変貌を遂げました。

妻は使っていたコンタクトレンズをやめて眼鏡にかえました。コンタクトレンズというのは結構、お金が掛かるものです。業界が儲かるための仕組みなのだと思います。人様のために払うお金は我が家にはありませんでした。その他にも生活の質を思い付く限り落として、我が家からお金を持っていく「負債」を徹底的に排除しました。

世間では見えない貧困ということがよく言われています。見えない貧困とは「一見、普通に生活しているようで実は貧困だ」というもので、テレビなどで子供の給食費が払えないとかフードバンクから食料を貰ってなんとかやりくりしている家族がテレビに出ていたりするのですが、でもその一家は家族でスマートフォンを持っていて、親子でゲームに夢中になっていたりします…。

確かに「一見、普通に生活をしている」ように見えます。私は雑草に近いものを食べて命をつないだ経験があるので、誤解を恐れずに言わせていただきますが、貧困なのに「普通に生活」をしていては貧困から抜け出すことは絶対にはないと思います。私は未だに、スマホを手にしたことがありません。

さて、いざ資産を買う段階になりどんな資産を買おうか？という話になりますが、不動産を所有するとなると大きなお金がいるし、運用するための知識と経験が必要です。素人にはとても無理です。不動産を運用する REIT 等もありますが、空き家対策で政府が対策に乗り出している中、不動産投資はプロが運用したとしても、とても厳しい世界だと思います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

私は一般生活者が資産を構築するには株式や投資信託が一番優れていると思います。今は数万円からでも株式を買うことができます。投資信託なら月々500円から積立を始めることもできます。金融資産の非常に優れているところは「誰でも」、「能力不要で」、「今すぐ」、「少額から」資産の構築を始めることができます。株式投資なら、自分より優秀な経営者の方が運用してくれます。

例えば、トヨタの株を買ったとすれば、世界に名だたるトヨタの生産設備と経営ノウハウまでも所有することになります。自分は無能でも全く問題ないのです。自分がやる事は節約して金融資産を買うだけです。銘柄を選ぶ手間はありますが、投資信託であれば、それさえも本物のプロと呼ばれる人が仕事としてやってくれます。自分は「何もしなくていい」のです。こんな簡単でありがたい話はありません。

もちろん、月々500円で積立投資を始めたところで、大したお金は増えませんが、上がったたり、下がったりしながら時間の経過と共に増えていくことを知ることが出来ます。そこで投資が理解でき、不要な不安は消えてなくなり、いつの間にかワクワクに変わっていきます。

実際に投資信託を買う前に読んだ本は、中桐 啓貴氏の「ほったらかしでも1億円の資産を生む株式・投資信託の始め方」という本でした。この本は投資を経験したことのない方には投資がギャンブルではなく、難しい話でもないことを理解できるとも分かりやすい本です。この本で、「さわかみ投信」などの直販投信があることを初めて知ったのですが、中桐氏の仰る「国際分散投資」にとっても共感した私が最初に購入した投資信託は「セゾン・バンガード・グローバル・バランスファンド」でした。月々5,000円の積立投資を始めました。まだ貧乏を一歩も抜け出していません。毎月の生活費から本代と積立投資を引くと残りは22,000円です。

投資に関する本以外にも「お金」そのものについて書かれている本も数多く読みました。その中で、お金持ちほど「寄付」をしていることを知りました。そしてお金持ちと呼ばれている人は、お金があるから寄付をしているわけではなく、貧しい頃から寄付をする習慣があるということを知りました。お金持ちと呼ばれる人は「豊かな感覚でいることが次のお金を連れて来る」ことを知っているようです。なので、私も寄付を始めました。

私が寄付をしているのは鬼丸 昌也氏が運営している「テラ・ルネッサンス」という団体です。このテラ・ルネッサンスは幼くして戦争に駆り出され、学校へ行くことが出来なかった子供たちのために学校を作る活動をしています。生きて行くための教育の重要性を強く感じていたので、少しばかりですが今も続けています。

実際に寄付をしてみて分ったことがありました。毎月、ギリギリだと思って生活していても、いざ寄付を初めてみれば何とかなるものでした。そんな状況で誰かに寄付をしているという感覚は、お金に対する執着をみるみる消し去り、欠乏した感覚がなくなっていました。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

欠乏した感覚がなくなっていった私の収入は増えるようになり、金運はドンドン上昇していきました。お金が無いことへの恐怖が薄らいでいくのをハッキリ感じました。豊かな感覚でいることは、本当に次のお金を連れて来ます。お金持ちが積極的に寄付をする理由が分りました。

この寄付を始めた時点では、まだ貧乏を一步も抜け出していません。毎月の生活費から本代と積立投資と寄付を引くと…そこはもう「異次元」の世界です(笑)。今まで自分が持っていた価値観が全てリセットされました。貧しくあることを恥ずかしく感じる余地はどこにもなく、全く恥ずかしくなくなるのです。

「お金そのもの」に関する本を読む中で、お金とは「自分が創造した価値が記録された紙」であることを学びました。その「価値」とは何かと言うと「嬉しい気持ちの変化」のことでした。例えば誰かが大きな病気をして手術を受けたとします。その人は苦しい治療に対してお金を払うのではなく、「病気が治った、良かった」という嬉しい気持ちの変化に対してお金を払います。あるいは、誰かが車を買うとします。その時、鉄の塊にお金を払っているのではなく、車を買うことで「生活が便利になった、良かった」という気持ちの変化に対してお金を払います。その気持ちの変化は人によっては、その車が持つスタイルや性能だったりもします。

これは、たとえ詐欺などの犯罪であってもこれは同じです。オレオレ詐欺の電話がかかって来て「これは大変だ!」と思っている人に「お金を払えばこの状況を抜け出せますよ」と持ち掛けることで、「良かった、助かった」と気持ちの変化が起こると人はお金を払ってしまうのです。

お金とは「気持ちの変化」であることを学んだ私は「そうか、世の中の役に立っている会社、人を喜ばせている会社に投資をすれば、黙っていてもお金が流れて来るな…」と思うようになりました。今思えば、当たり前なことなのですが、当時の私には新しい発見でした。極限の貧乏を経験する前にも何度か株式投資はしたことがありましたが、何をやっているか分からない会社の株価を追いかけて売ったり買ったり、バクチ投資でしたので、この発見は投資を正しく理解することになりました。儲かりそうな会社ではなく、必要とされている会社に投資をすればいい。儲けは後の話なのだ。

そして、多くの本を読んでいく中で、金融の世界にはダークな部分もあり、お金は絶対的なものではなく、銀行の仕組み作り出した幻であることも知りました。コツコツと積立投資をしながら、自分なりに金融と投資に対する理解が深まるにつれて、どんどんお金に対する不安はなくなっていき、お金も増え始めました。

時に暴落も経験し、元本が割れて「やっぱり、投資なんてしなければ…」と思ったこともありますが、やめずに続けていくうちに、暴落は悪いことではないことを頭ではなく体で理解出来ました。そ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

これは、暴落のたびに資産が大きく膨らんだからです。売ったり買ったりのバクチ投資は暴落で資産を減らすこともあると思いますが、長期的な視点でコツコツ投資をする場合は、暴落の回数が多ければ多いほど、暴落の規模が大きければ大きいほど資産は膨らみます。暴落というバーゲンセールはたっぷりと資産を増やすことが出来るスーパーボーナスステージなのです。

自分の中で「お金とは?」、「投資とは?」、「豊さとは?」という自分なりの考え方がまとまって来た頃に「さわかみ投信」の澤上篤人会長がインターネットでTV番組をやっていることを知りました。この番組は、隔週で視聴者からの質問に澤上会長が自ら回答する番組で、私は毎回欠かさず質問をしていました。澤上会長のお話は本物の投資に対する理解を一気に加速させてくれました。澤上先生の著書も何冊も拝読させていただきました。

投資は難しいものではなく、特別な人がやることでもない。知れば知るほど簡単で誰にでも身近であり、みんなが豊かな生活を送るために、なくてはならないものだとの理解が深まっていきました。投資やお金に関するお話は生きていくために不可欠な教育であり、人生の必須科目だと感じていた私は、当時まだ小学3年生だった長男にもその番組と一緒に見せていたのですが、そんな長男が「ぼくも、さわかみ先生に質問したい」と言い出したので質問してみることにになりました。

その時の質問の内容は忘れてしまいましたが、会長は長男の質問に丁寧に答えてくださいました。そして、そのことがきっかけとなり、「紙芝居を使って子供たちにお金のことを教えている人がいるから今度、番組に呼ぼう」という話なり、その時に番組に呼ばれたのが、岡本和久先生でした。私は岡本先生が紙芝居の中で語られているお話に激しい衝撃を受けました。

私が自分なりに「お金とは?」、「投資とは?」、「豊かさとは?」と漠然と考えていたことが、その紙芝居の中で見事に語られていたのです。そして、それは子供に伝えるためのものなのです。「これだ!!」と思いました。自分が考えていたことは間違いではなかったと確信に変わった瞬間でした。





長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本先生が紙芝居の中で語られる「お金は感謝のしるし」、「お金持ちは感謝持ち」、「お金はご縁のネットワーク」、「6つの富の(お金以外の5つ)お話し」、「ハッピーマネー四分法」など、どれも豊かに幸せに生きていくために大切なお話で、それが子供にも理解できるように紙芝居になっているのです。私はその紙芝居が欲しくて、欲しくてたまらず、すぐに岡本先生に連絡をとり、紙芝居を譲っていただきました。その紙芝居が自宅に届いた時は「嬉しくて、嬉しくて」たまりませんでした。大切に、大切に仕方なく、痛まないようにすぐに、押入れにしまいました。今でも、子供が触らないように押入れにしまっており(笑)。我が家の「家宝」です。その岡本先生から嬉しいことに勉強会のお誘いまでいただき、毎年、秋田で勉強会をやるようにもなりました。



私は、極限の貧乏だった時、自分が貧乏なのは「給料が少ないからだ」とか「政治が悪いからだ」、「家が貧乏だからだ」と自分以外の誰かのせいだと思っていました。でも原因は全て自分にありました。「お金のことを知らな過ぎた」のです。誰も教えてくれなかったのです。そして大切なことは、お金が沢山あることが豊かなのではなく、お金に対する付き合い方が自分を豊かにも貧しくもするのだと分りました。



お金に対する不安や恐怖が日々なくなり、将来がワクワクしたものにどんどん変わっていきました。この時、子供はまだ二人だったのですが、ずっと三人欲しいと思っていた我が家は、お金の不安がなくなったため、三人目をもうけることにしました。

どん底の2010年からわずか2年後の2012年の事でした。まだ借金は3,000万円以上で、築いた金融資産は200万円程でしたが、お金の不安や恐怖、欠乏した感覚はほとんど消え去り、未来へのワクワクで一杯でした。豊かさとはたくさんのお金の事ではなく、お金との付き合い方であり、そのための知識の事だと思います。





長期投資仲間通信「インベストライフ」

私の好きな「豊かさの定義」があります。それは「豊かさとは全てを失った時に残ったもの」というものです。どんなにお金を蓄えても使ってしまうと無くなります。お金はただの紙です。印刷物です。その印刷物をいくら積み上げたところで豊かさを感じることはありません。印刷物だからです。積み上げた分だけ、失う恐怖も大きくなります。お金をいくら蓄えても不安が消えない理由はそこあります。「全てを失った時に残るもの」、それは、お金の知識です。このお金の知識は脳の中に蓄積されるものなので、どこへでも持ち運びが出来ます。誰かに盗まれることもありません。自分が生きている限り失うこともありません。子供に伝えることも出来ます。相続税もかかりません。そして、いつ無一文になっても、いつでもどこでも何度でも、その場で富を創造することが出来ます。自分以外の誰かを豊かにすることも可能です。そして無害です。「ノーリスク・スーパーリターン」です。お金は脳が生み出しています。それは脳に蓄積されたお金の知識がお金を生み出します。読書量は年収と比例するそうですが、本当だと思います。

豊かさとは自分の外側にあって追いかけるものではなく、既に自分の中にあって見つけて貰うのをずっと待っているのだと思います。「貧乏は心の病気」という話を聞いたことがあります。こんなことを書くと怒られそうですが、これも本当だと思います。自分が極限の貧乏をした原因は全て自分にありました。お金のことを知らな過ぎたのです。この気づきが私の「再起」となりました。「谷底」から這い上がり始めた私が感じたワクワク。このワクワクがこの後、スリルに近い強烈なワクワクになって行くことを当時の私はまだ、想像することは出来ませんでした。

次回、「自立」へ続く…。